

ポートフォリオ指導の実践と受講生の変化

八尾 由希子

モンゴル日本人材開発センター

1. はじめに

モンゴル日本人材開発センター（以下、MOJC）では、2012年から「JF 日本語教育スタンダード（以下、JF スタンダード）」準拠の講座が始まったのに伴い、授業にポートフォリオが導入されることになった。しかし、モンゴルの学習者は教師主導型で言語知識の暗記を中心とする語学学習に慣れており、長期的よりも短期的な視点でものごとを見る傾向がある。さらに、MOJC 日本語講座受講生の半数以上は学生（中学生～大学生）であることから、ポートフォリオ導入にあたってはかなりの工夫が必要であろうと思われた。そこで、本レポートでは、

- 1) ポートフォリオに全くなじみのない教師、受講生にどのように導入してきたか
- 2) 初中級レベルの受講生がどのような考えでポートフォリオに取り組んだか

以上2点について、授業実践とインタビュー調査の分析結果から報告したい。

2. ポートフォリオ指導の実践

2.1 MOJC のポートフォリオ使用クラス

MOJC では2012年度秋学期（9月開講）から JF スタンダードが導入され、初年度は『まるごと 日本のことばと文化』（以下、『まるごと』）入門クラスのみが開講された。その後、学期ごとに1レベル上のクラスが設けられてきた（表1）。2014年6月現在、初中級クラスまで開講されており、すべてのクラスにポートフォリオが導入されている。

表1 MOJC での『まるごと』使用クラスの開講状況

開講学期	入門 (A1)	初級1 (A2)	初級2 (A2)	初中級 (A2/B1)
2012年度秋学期	○			
2012年度春学期	○	○		
2013年度秋学期	○	○	○	
2013年度春学期	○	○		○

○：開講

また、これ以外にも中級会話クラス、中級読解クラス¹、漢字クラスや上級ビジネス日本語クラスなどがあり、『まるごと』使用クラスと同じ形式のポートフォリオが使われている。

¹ 中級会話クラス（2012年度秋学期開講）、中級読解クラス（2013年度春学期開講）は、日本語初級レベルを修了した学習者対象に開講された。しかし、2013年秋学期からは当該レベルの学習者を対象とする『まるごと』初級2（A2）、初中級（A2/B1）クラスが始まったことから、それ以降は開講されていない。

2.2. MOJC でのポートフォリオ指導の変遷

2.2.1 2012 年度秋学期～2012 年度春学期：教師からの働きかけを整備

受講生がポートフォリオをクラスの学習活動の一環として受け入れ、早く慣れることを目指し、かつ 30 人を超えるクラスにも対応可能なような教師からの働きかけを整えた（表 2）。

表 2 ポートフォリオ指導の時期や内容

時期	内容
(1)コース初日	①ポートフォリオ用ファイル（2穴リングファイル）の配布
	②オリエンテーション。国際交流基金（2010）に従い、PPT を使ってモンゴル語で行う。
	③表紙、プロフィール、日本文化体験の記録シートを配布し、利用方法を説明する（資料 1, 2, 3 を参照）。 文化体験に関しては、資料や実物（例：聞いた J-Pop の歌詞、折り紙の作品など）もファイルすることを伝える。
	④「文化体験のヒント」の配布（ウランバートルで日本文化が体験できる場所やインターネットのサイトがリストアップされたもの）
(2)毎回の授業	⑤自己評価・振り返りシートの配布、回収、フィードバック 自己評価は『まるごと』にならって☆を塗りつぶして表す。また、その日の授業内容に関する質問を与え、受講生の振り返りを求める（例：「今日は家族名称を勉強しました。モンゴルと日本で、家族の呼び方は同じですか、違いますか。それについてどう思いますか。）。シートは回収し、授業担当教師がコメントを記入して返却する
(3)テストと振り返り (中間、期末の 2 回)	⑥教師によるポートフォリオ評価（資料 5 参照）
	⑦ポートフォリオについてのクラスメートとの話し合い

2.2.2 この段階での問題点

(1) ポートフォリオ利用方法への理解不足

配布教材の保管用として利用するだけで、学習過程にまで取り込まれていないケースが見受けられた。また、文化体験の資料や実物をファイルする受講生も限られていた。これは、受講生の自律的学習を促す教師からのサポートが十分ではなかったからだと考えられる。加えて、初日のオリエンテーションで、ポートフォリオと同時に JF スタンダードの理念についても、国際交流基金（2010）にある表現そのままに一度に説明したこと、受講生が内容を消化しきれなかったのも一因であろう。

(2) 教師側の理解・連携不足

教師にとっても初めてのポートフォリオ指導だったことから、さまざまな混乱が生まれた。まず、自己評価・振り返りシートに設けた質問（表 2 の⑤）の内容の統一性や妥当性の問題。次に、このシート以外にも、日本文化紹介（例：『まるごと』の「生活と文化」）や中間・期末テストなどでも別途振り返りシートが作成され、内容や量の面で受講生の負担が大きくなってしまったこと。三つ目に、ファイルされたものの量の多寡で良し悪しを判断することがポートフォリオ評価であるという認識が共有されてしまったことである。MOJC では入門～初級 2 クラスの場合、1 回の授業をモンゴル人・日本人教師がティームティーチングで担当することから、1 つのクラスを担当する教師が合計 4～5 人になることもある。複数の教師がそれぞれの視点でシートを作成したことや、ポートフォリオ評価とは何かについての教師間の共通認識が足りなかったことが混乱の原因であろう。

2.2.3 2013年度秋学期：受講生の変化を促す働きかけを改良

上記の問題点を改善するために、まず、受講生、教師を問わず、初めてポートフォリオに取り組む人にとってわかりやすい説明が必要となった。さらに、受講生にその内容や目的をよく理解してもらうだけでなく、文化体験を通して自分の日本語学習過程の変化に気づいてもらう仕掛けも必要になる。そこで、クラスメートの作ったポートフォリオを見ることでよい刺激を受け、積極的に取り組む気持ちになる受講生も多くいることから（片桐（2014））、クラスメートとポートフォリオを見せ合う機会をさらに有効に利用すること、教師はポートフォリオに関する理解を深め、共通認識を持つことを目指した。具体的な改良点は次の通りである。

- ① オリエンテーションの説明をわかりやすく書き換え、時期を初日から開講後2～3回目の授業にずらした。その結果、受講生は新しい授業に少し慣れてからあらためてポートフォリオを知ることになり、理解不足が解消された。
- ② ポートフォリオの中表紙（「1. 評価」、「2. 文化体験」、「3. 成果物」と書いた3枚）をファイル配布時に綴じ込んでおくことにした。また、ファイルするシートと、しなくてもいい資料（文法解説など）の区別がつきやすいように、ファイルするものにはあらかじめパンチ穴をあけて配布した。結果、何をファイルすればいいか一目瞭然になった。
- ③ 自分の学習過程を意識するために、CEFR（『Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment』）に基づいた自己評価表（資料6）を配布し、記入してもらった。
- ④ 異文化体験を奨励する働きかけを強化した。まず、初日に行っていた異文化体験のヒント配布を、ポートフォリオ・オリエンテーションと同じく2～3回目の授業時に変更した。また、その際、ヒントに載っているサイトをいくつか教室で実際に開いて見せ、受講生の関心を呼び起こした。そして、異文化体験による自分の変化に気づいてもらえるよう、文化体験の記録シートを改善した（資料3）。
- ⑤ 自己評価・振り返りシートの設問を次のような問いに統一した²。

今日の授業を振り返りましょう。「～についてもっと知りたい」「～がわかった」「～がおもしろかった」「～が難しかった」「～に気がついた」「～と思った」を使ってコメントを書きましょう。

これにより設問のばらつきがなくなったうえに、受講生が授業の最後にその日の授業全体を振り返り、最も印象的だったことを思い起こせるようになった。他の内省用シートも調整した。

- ⑥ 教師間で共通認識を確認した。その結果、教師によるポートフォリオ評価は、数量による評価ではなく、受講生の成長を促すための励ましやアドバイスに重点をおくことになった。

2.2.4 2013年度春学期～：受講生の自律を促す働きかけを重視

片桐（2014）によると、自己評価・振り返りシートを、あとで復習のために見返したり、自分の言語能力を知るために振り返ったりする受講生はそれほど多くないことがわかった。

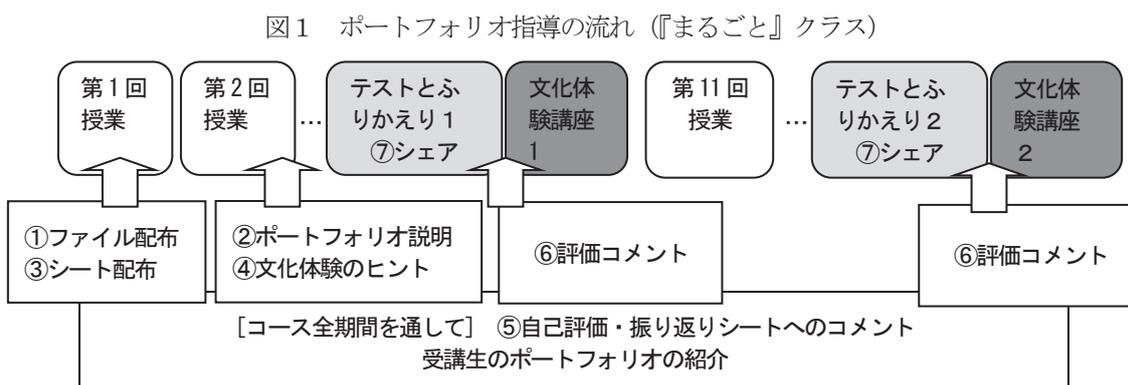
このため、それまで一回だった自己評価を資料4のように二回に増やした。1回目の自己評価は従来

² このアイデアはマニラ日本文化センターで使われているものである。

通りその課の授業の最後に記入し、2回目はテスト前に各自で記入することとした。そして、全課の自己評価・振り返りシートが揃っていて、かつ2回目の自己評価が「★★☆できました」以上であること、というのを修了要件に加えた。

2.2.5 現状

以上をまとめると、現在は次のような手順でポートフォリオの指導を行っている。



なお、MOJC の日本語講座では、テストとふりかえりのあとには必ず「文化体験講座」が設けられている。これは、成人した受講生と違って、情動的・経済的に日本文化へのアクセスが限られている年齢層の低い受講生（中学生～大学生）にも日本文化に触れる機会を持ち、異文化理解のきっかけにしてもらうためである。文化体験講座のテーマは受講生からの要望や『まるごと』に登場する日本文化から選ばれる（例：書道、けん玉、おにぎり、そば、風呂敷など）。文化体験講座に出席した受講生は感想をシートに記入し、ポートフォリオに写真や作品などといっしょに保管することになっており、ポートフォリオ指導の一助となっている。

3. 受講生のポートフォリオ取り組みに対する考え方の変化

2章では色々なクラス活動や教師の働きかけにより、慣れない受講生でもポートフォリオに取り組みやすくなる試みを紹介した。ここでは、受講生はポートフォリオにどのような態度や気持ちで取り組んでいたのか、報告者が担当したクラスをとりあげて明らかにしたい。

3.1 クラスの基本情報

表3 クラスの基本情報

レベル	A2B1
実施コース名	標準日本語4クラス
実施日時または期間	2014年2月25日 - 5月8日(2013年度春学期)
授業時間	60分@1コマ、1回2コマ(120分) 週2回×11週=22回(計44時間)
授業担当講師	報告者と報告者以外の教師1名(日本語非母語話者)
クラスの学習者数	13人

学習者の属性	性別：男性 3人 女性 10人 年齢：10代 5人、20代 6人、30代 2人 職業：中学生 1人、高校生 3人、大学生 6人、 社会人（会社員、公務員など） 3人
MOJICでの学習歴 (ポートフォリオ経験)	あり：6人（うち、『まるごと 初級2』修了：4人） なし：7人
使用教材	『まるごと 初中級』

3.2 アンケート結果に見た受講生のポートフォリオに対する考え

最後の授業時にコース内容全体の印象についてアンケート調査を行った（回答者12名、3つまでの複数回答）。表4は12名中何人が各項目に対して「よかった」「よくなかった」と答えたかを示している。

表4 最終回アンケートの結果

授業の中でよかったこと・よくなかったことは何か（複数回答それぞれ3つまで）

項目	よかった		よくなかった	
	人数	%	人数	%
①授業のはじめの Can-Do Statement の確認	2	16.7	1	8.3
②授業の終わりの Can-Do Statement の確認	0	0.0	2	16.7
③確認テスト	3	25.0	0	0.0
④自己評価	1	8.3	0	0.0
⑤振り返りシート	1	8.3	0	0.0
⑥日本の社会と文化	2	16.7	1	8.3
⑦CDを聞いて練習する	5	41.7	0	0.0
⑧ペアで話す	2	16.7	3	25.0
⑨教室活動	1	8.3	2	16.7
⑩文法説明シート	3	25.0	0	0.0
⑪語彙リスト	6	50.0	1	8.3
⑫テストと振り返り①と②	2	16.7	2	16.7
⑬グループでポートフォリオを話す	0	0.0	3	25.0
⑭会話試験	2	16.7	0	0.0
⑮ポートフォリオ	0	0.0	0	0.0
⑯宿題	0	0.0	0	0.0

これを見ると、自己評価・振り返りシートについても（質問④⑤）、ポートフォリオについても（質問⑮）、受講生は「よかった」とも「よくなかった」とも評価していない。一方、教師側が重要な機会ととらえていたクラスメートとシェアする時間（質問⑬）は、「よくない」と答えた人が3人で、ペア会話活動と並んでワースト1位だった。アンケート結果を見る限りでは、受講生はポートフォリオについてあまり高く評価していないと言える。

3.3 インタビュー調査

受講生はポートフォリオへの取り組みをどのように受け止めていたのかを知るために、受講生13人のうち、時間的に都合のついた7人（表5）に協力してもらい、インタビュー調査を行った。質問事項は資料7に添付した。

表5 インタビュー協力者

協力者番号	年齢	性別	職業	ポートフォリオ経験 (以前受講したクラス)
S1	20	男	大学生	あり (「標準1、3」クラス)
S2	15	女	高校生	あり (「中級会話」クラス)
S3	18	女	大学生	あり (「標準3」クラス)
S4	21	女	大学生	あり (「標準3」クラス)
S5	14	女	中学生	あり (「漢字」クラス)
S6	24	女	大学院生 (内モンゴルからの留学生、母語はモンゴル語)	なし
S7	31	女	教師	なし

インタビューは報告者が日本語で質問し、協力者は主にモンゴル語で答え、必要に応じて同席したモンゴル人教師が通訳した。協力者にはポートフォリオを持参してもらった。

3.3.1 考え方の変化のパターンによる分類

受講生のポートフォリオに対する考え方の変化を以下の4パターンに分けた。

表6 心情の変化と該当者

考え方の変化のパターン		該当者
(1)	最初から最後まで積極的に取り組んだ	S1、S2
(2)	最初は消極的だったが、途中から積極的になった。	S5、S6
(3)	最初は積極的だったが、途中から消極的になった。	S3、S4
(4)	最初から最後まで、興味が持てなかった。	S7

(1) 最初から最後まで積極的に取り組んだ受講生

①考え方の変化の時期ときっかけ

S1 も S2 も今回のクラス以前にポートフォリオに取り組んだ際にはどうやっていいかわからない時期があったという。それが積極的になった時期ときっかけを次のように述べている。

	時期	きっかけ
S1	以前受講したクラス (標準1 (「まるごと」入門) の後半)	もともとあった日本に対する興味をほかの人に知ってもらおうと思いました。先生方やほかの人にも。それで、 <u>自分の中のことを見せるにはどうやったらいいか</u> と思ってポートフォリオに表したんです。私はこんなに日本の文化が好き、とアピールしたかったんですね。
S2	以前受講したクラス (中級会話) の途中	(中級会話クラスの) 最初はよく分からなくて、ぐちゃぐちゃでした。途中からよく分かって、整理して入れたほうがいいと分かりました。後で見ても、 <u>わかりやすくしたほうがいいと自分で気がついて。</u>

上記のようなきっかけをもとにポートフォリオを改良したところ、二人とも好結果が出たことから、その後受講した初中級クラスでも積極的な態度が継続し、受講期間を通じて肯定的な気持ちでポートフォリオに取り組めたのであろう。

②ポートフォリオをすることによって起きた自分自身の変化

二人が得た好結果とは何だったのか。自分自身の変化として次のように述べている。

自分自身の変化	
S1	私は（中学高校は）モンゴル-ロシア学校に行っていました。いつも能力試験の準備のような勉強の仕方、こういう（書くジェスチャー）勉強で、頭に知識を詰める授業でした。文字、漢字、文法。ここで、これ（ポートフォリオ）を使って日本に関係のあることを取り入れながら勉強するのは長所だと思います。（中略）日本語の勉強は、暗記して頭に詰め込んでやるものではなく、楽しんで、自分の好きなことを通してやればいいんだということが分かったことが、大きな変化です。
S2	ポートフォリオがすごく気に入って、ほかの勉強にも取り入れるようになりました。数学とかモンゴル語とかでも、紙にこんなふうに（ポイントをいろいろな色のペンを使ってまとめて）書いて、ファイルにまとめるようにしています。（中略）整理してまとめると、暗記がしやすいです。いろんな場面で使えると思えました。見てそのまま（画像として）暗記するタイプなので、（一枚の紙に要点をまとめたものをファイルして覚えたら）ほかのところもポンポン頭に浮かんできて（成績もよくなりました）。

S1は、自分の日本文化に対する興味を他人に知ってもらって（事実、S1の興味は戦国時代の歴史から盆栽、アニメ、黒澤映画と多彩である）自尊心が満たされたこと、その態度が教師からも評価されたことから、勉強が楽しく感じられ、新しい学習方法に魅力を感じていったのだと考えられる。一方、S2も、ポートフォリオへの取り組みを通して自分に適した勉強法を見つけ、それがうまく機能していることで自信をつけたようだ。二人とも初中級クラスが終わった現在でもポートフォリオに新しい資料をファイルし続けていると述べていることから、二人がポートフォリオを自律的に活用し、自分の学習に取り込んでいることが明らかである。

(2) 最初は消極的だったが、途中から積極的になった受講生

①考え方の変化の時期ときっかけ

	時期	きっかけ
S5	今回受講したクラスの途中（春ごろ）	やらなかったのは学校の授業が忙しかったので。試合とかがあったんです。で、春からは忙しくなくなりました。
S6	今回受講したクラスの3、4課あたりから	最初は授業自体に慣れなかったのでよく分からなかったのですが、慣れてきて理解できることが増えて楽しくて、よく取り組むようになりました。（具体的には）成果物の文法シートとか語彙表とかです。（誰かの影響があったわけではなく）自分自身で。

S5は単に忙しかっただけで、もともと折り紙をしたり日本のアニメを見たりするのも、それを記録するのも好きだったと述べている。一方、S6は内モンゴルで受けた文法訳読法による日本語教育の影響か、開講時は教師のごく簡単な日本語の指示も理解できず相当戸惑ったようだ。が、次第に授業中に笑顔が見られるようになり、発言も増えていった。その経過とポートフォリオへの取り組みが重なっていると思われる。ただ、文化体験重視のS5と違って、S6が興味を持っていたのは授業の振り返りや成果物で、ポートフォリオを復習のツールとして重視していたようだ。これについてS6は、留学生寮にはパソコンやプリンターなどの機器が手近になく、文化体験を深める機会も少なかったからだと述べている。

②ポートフォリオをすることによって起きた自分自身の変化

自分自身の変化	
S5	わかりません。もともとこうやって整理するタイプでした。
S6	以前（内モンゴル）は自分のことを勉強のテーマにしたことはなかったんです。ポートフォリオを使って、自分で考えたことを自分の手で書いて、知識が確実な、忘れられないものになりました。内モンゴルでは先生の説明はその場ではよく分かるのですが、試験では忘れてしまうこともありました。国にはこういうやり方（日本語母語話者がいる、コミュニケーションを重視する、教材が豊富である）ができる環境がありません。（中略）でも、（ポートフォリオは国に帰っても）役に立つと思います。

この答えからは、S5 も S6 もポートフォリオの効用をそれほど意識しているとは思えない。S5 は年齢的なこともあるだろう。S6 が述べているのはポートフォリオの効果というより、MOJC の授業の特徴である。

(3) 最初は積極的だったが、途中から消極的になった受講生

ここに該当する二人は、どちらも標準日本語3クラス(『まるごと 初級2』)修了者で、「標準日本語3クラスのほうがポートフォリオに積極的に取り組んでいた」と述べている。では、いつ、どんなきっかけで消極的になってしまったのか。

①考え方の変化の時期ときっかけ

	時期	きっかけ
S3	今回受講したクラス の中間テスト時	<u>中間テストでのセッションがありましたよね、ポートフォリオを準備していかなければいけない、その時にはすごくよく準備して行って満足して、で、それが終わったら「ま、いっか」ってなって。春でしたから大学の授業の勉強も忙しくて。それと、私、(MOJC での) テストの点が悪かったので、ショックを受けて、で、あまり頑張らなくなっちゃったんです。</u>
S4	今回受講したクラス が始まって1か月半 ぐらい後	<u>先生にチェックされると思うとがんばるんです。チェックされると、締め切り前に頑張っている追加でファイルしますが、チェックがないとなるとそんな頑張りはしないかもしれません。</u>

二人とも、中間の「テストとふりかえり」での教師による評価を変化の時期としてあげており、チェックが終わるとやる気がしぼんでしまったと述べている。この、教師による明示的な評価がいかにもモチベーションにつながるかという点に関して、S3 は次のようにも述べている。

「(もし、ポートフォリオが評価の対象になるとしたら、) 絶対にいい点を取ろう! と頑張ります。」

では、教師による評価が済んだあと、この二人の日本語や文化に対する興味自体がなくなってしまうかという点、S3 の場合はそうではない。インターネットのサイトで、参加者が自由に日本のアニメ動画にモンゴル語の字幕をつけてアップするものがいくつかあり、S3 もその一つに参加するようになった。20 分の動画のセリフを何時間もかけて翻訳し、知らない言葉をネットで調べることに大きなやりがいと喜びを見出していること、動画のコメント欄に書かれる閲覧者のコメントがとても待ち遠しいことを述べている。この S3 のポートフォリオを見ると、積極的にポートフォリオに取り組んでいたと言う時期には、趣味で集めているかわいいデザインの便箋に、興味を持ったこと (J ポップ)、そこからネットで調べた情報 (歌詞やその社会・文化的背景) などが詳しく書き込まれ、ファイルされている。このことから、もしかすると S3 は最初、上述の S1 と同様にポートフォリオを自己表現の手段ととらえ、情報を自分らしくまとめることを楽しんでいたのだが、興味の対象がアニメの動画翻訳に移るにつれて、自己表現の場もネットの世界に移行してしまったのかもしれない。

②ポートフォリオをすることによって起きた自分自身の変化

自分自身の変化	
S3	日本の知らないところ、文化について知りました。日本語の上達の面では特にないかな。 <u>ポートフォリオがあったので、何か（日本のものを）見たら、それについて考えたり調べたりするようになったと思います。</u>
S4	日本の文化に関することではいろいろ分からなかったことについて調べたり理解したりできるようになりました。 <u>授業に関することでは、文法や新出語など、習ったことをしっかり理解できるようになりました。</u>

ここでも二人は同じような回答をしている。しかし、ポートフォリオという形では残さないものの、日本文化への関わりは継続している S3 に比べ、S4 はクラス修了後、ポートフォリオを振り返ることもなく、何かに続けて取り組んでいる様子も見られない。他の質問に対する S4 の回答を見てみると、その背景には S3 のように自分の趣味や嗜好とマッチさせようと試みたり、クラスメートのポートフォリオを真似ようとしていたりした、S4 などの試行錯誤が浮かんでくる。また、S4 は皆がポートフォリオにもっと積極的に取り組むようになるためのアドバイスとして、「方向性を示してもらえるといいと思う」と述べている。すなわち、模範のようなものを求めていると考えられる。このことから、S4 は、S1、S2 や S3 のような確固とした趣味や学習観がまだつかめておらず、ポートフォリオにどう取り組めばいいか方針を得ないまま終わってしまったのではないかという印象を受ける。

この二人に共通して言えることは、教師の指示通りポートフォリオに取り組むことで教師から良い評価を受け、良い成績を取りたいと思っていたことであろう。後述するように、ポートフォリオを成績判定に入れることは強力な動機付けの一つになるのかもしれないが、教師による評価が済んでからも継続して取り組んでもらうためにはどうすればいいのか、考えていく必要がある。

(4) 最初から最後まで、興味が持てなかった受講生

S7 はインタビュー時にポートフォリオファイルを持ってこなかった。そのかわり、ファイルから自分が必要だと思う部分（文法のワークシートなど）だけを抜き出したものを持参し、それ以外の部分は「不要だと判断して捨てた」と述べた。それほど自分の学習に確固とした考えを持った受講生であった。

①興味が持てなかった理由

S7	<u>時間がありませんでしたから。コースに通ったいちばんの目的は文法を勉強したかったからなので、それ以外のことに気分が向きませんでした。</u> （中略）最初説明の時はいいなと思ったんですが、（自己評価・振り返りシートなども）授業でやった後はそれほど大切ではないと思いました。
----	--

面白いのは、ポートフォリオに興味が無いと言いながらも、S7 の文化体験の記録には趣味の将棋の棋譜のコピーや将棋関係の本、その本に出てきた語句のモンゴル語訳などがいくつもファイルされ、外見的には他の受講生のポートフォリオよりも充実した内容であったことだ。しかし、S7 にすると「将棋は興味がありましたから、いつでも家で見てましたし、先生にも何かファイルするように言われたので（入っただけで、本音としては意味がわからなかった）。」という気持ちだったようだ。

②ポートフォリオをすることによって起きた自分自身の変化

自分自身の変化	
S7	文法や文化体験などを別々に分類してファイルすることです。以前は、ノート1冊に文法も漢字もいっしょに書いていましたが、今は分類することを学びました。

S7はポートフォリオが全く無意味であったとは思っていない。それは、「ポートフォリオは日本語学習に役立ったと思いますか。」という問いに対する次のような返答からもうかがえる。

「最初からまとめて資料を保管することができたのはよかったです。

後で整理して要不要で分けられたので。」

S7にとってのポートフォリオは、今まではノートに書いてきた学習事項が「文法」「漢字」「語彙」「日本文化」などの項目で整理し直せ、自分にとって必要なものだけ残すことができるツールであったといえる。

目標を具体的に設定し、何が必要で何が不要でないのか判断できるという点では、S7は自分の学習に主体的に関わっていたといえるかもしれない。では、S7がポートフォリオを理解し、有効に利用するのに欠けていたことは何だったのだろうか、インタビューを通して感じたことを付け加えておく。インタビュー開始直後は、ポートフォリオにまじめに取り組みなかったという引け目からか、S7の回答は遠慮がちであった。しかし、インタビュー中に報告者や同席した通訳担当の教師が、どんなポートフォリオでもその人の学習過程が見て取れて、その時点でのその人の体験が記録されていればいい、その意味でS7のポートフォリオはすばらしかったというメッセージを送り続けているうちに、自分の取り組みを肯定的に捉え始めたように見えた。ポートフォリオがモンゴルで一般的な「評価＝教師が学生を試験して点をつける」という考えには基づいていないこと、受講生自身が楽しむことが大事だということを授業中に折に触れて丁寧に話していくことが必要だったのかもしれない。

3.3.2 ポートフォリオへの取り組みを積極的にするヒント

最後に、協力者の発言にあったポートフォリオへの取り組みを促進するヒントを挙げておく。

(1) クラスメートから受ける影響の利用

S1	(クラスメートのポートフォリオを) 楽しみに見せてもらいました。(中略) (クラスメートが) 私とは違う興味を持っていて、私が知らない日本の文化を体験しています。それを参考にして自分もやってみるといいのかなと思いました。
S2	(クラスメートを見て) もっと頑張ろうと思いました。(中略) 特に(誰かの) 真似をしたいとは思っていませんでしたが、日本に関係あるものをもっと入れようと思いました。
S3	Aさんが歌を翻訳してYoutubeにアップすると言っていたのを聞いて、標準日本語4クラスで私も翻訳してみました。
S4	誰がいちばん歌が上手かとか、折り紙が上手かとか決めたり、歌ってみせたり、教えあったりしたら楽しいかもしれませんね。
S5	(クラスメートの描いたイラストを見て、自分もイラストを描いてみたいと) 思って…(描いたイラストを見せる)。
S6	Gさんが話していたサンサル地区の「石庭」(日本食レストラン)にも行ってみたいと思いました。実際に(クラスメートが薦めた) 歌を聴いたり、歌舞伎を見たりもしました。
S7	ある子(S2)が漢字で慣用句をたくさん書いていたのが印象的です。私ももともと漢字を書くのが好きだったので、それが気に入りました。それで、将棋の本から漢字の慣用句を見つけて抜き出して、翻訳しようと思ったんですよ。でも難しくできなかったんです。

アンケート結果と相反して、S5を除くすべての協力者がクラスメートとポートフォリオを見せ合う機会を楽しんでいた。中でもS3、S4、S6はクラスメートがやったことを自分もやってみたと述べている。ポートフォリオの効果に懐疑的なS7でさえ、クラスメートの学習法を真似ようとしたと述べている。

(2) 日本への興味や日本語学習の目的の明確化

S1	<u>日本語を勉強する人は、その人の目的があるはずで、それは日本と必ず関係があります。ですから、当然、日本文化を知る必要があるはずで、日本文化を知るための簡単で手軽なツールとしてポートフォリオは適しているということだと思います（ということ伝えるべきではないでしょうか）。</u>
S7	<u>まず、その人が何のために日本語を学びたいのか、何に興味があるのか、（中略）を把握することではないでしょうか。教師と学生で把握したら納得できると思います。先生が説明するときに、「自分の興味を中心にするとうまくいきますよ」と伝えてはどうでしょうか。</u>

受講生は、最初どうポートフォリオを始めればいいのかわからない。特に、「文化体験」は、日本語学習とどう関わるのか説明を受けても納得しきれない受講生も多いことだろう。これについて、S1、S7は、受講生の興味や日本語学習の目的を教師が具体的に把握し、文化体験の記録につなげていけるように働きかけることが解決の第一歩であると示唆している。

(3) ポートフォリオ評価の見直し：義務化、点数化

S2	<u>点数化も必要です。自分でやっていますから、それを点で表したほうが良いと思います。例えば、ちゃんと取り組まなかった子がいるのに、頑張った子に何も無いのは嫌でしょう。その子にしたら、頑張りが無駄だったみたいで。それに、できないところに教師が悪い点をつけたら、生徒は「ああ、ここはよくできなかったんだ。直さなければいけないんだ」と思うと思います。</u>
S3	<u>（点数化は）いいんじゃないかと思います。私は「ポートフォリオは分厚いほうが良い」と思ってるので、絶対にいい点を取ろうと頑張ってます。前日に何でもいいから入れてくださいと言うより、評価しますと言ったほうが良いと思います。（今の評価の仕方だと）「まあ、いいか」ってなります。（中略）（質問者：教師による強制は無意味では？）私はやってよかったです。</u>
S4	<u>点をつけないと言うと、モンゴル人だけなのか、よくあることなのか分かりませんが、みんなやらないと思います。評価に入れば、興味がない人でもやるでしょう。興味がある人はさらに頑張ると思います。評価に入れることを負担に感じることは少ないんじゃないでしょうか。（中略）（質問者：強制的にやらせても意味がある？）はい。</u>
S5	<u>（まじめにポートフォリオに取り組まない人には）修了証がもらえる条件に入れたほうが良いです。先生がやれと言ったほうがやると思います。（中略）学校では成績に入りますから、たいいの子はやります。</u>

評価の対象を、現行の自己評価・振り返りシートだけでなく、ポートフォリオ全体に広げること賛同する意見が意外なほど多く出た。さらには筆記試験のように評価を点数で表すことを求める案も出た。これは、協力者に学生が多く、点数で成績が出る学校教育の影響もあるかもしれない。

その一方で、義務化や点数化を疑問視する声もあった。評価対象にすることに賛成のS3とS4が、たとえ学習者の自発的な動機からではなく、教師が強制的にやらせることについても価値を認めているのに対し、S6とS7は無意味であるとしているのが対照的である。

S5	<u>点数化はしないほうが良いです。点をつけるより、こっち（現方式）のほうが、見たときがっかりしないで済みますから。</u>
S6	<u>義務にしても意味がないと思います。やりたい人はやるでしょうし、やりたくない人はやらないでしょう。子どもなら教師の言うことを聞くかもしれませんが、大学では教師の強制力はそれほどないでしょう。評価に入れても、提出日の前にあわててやるだけで、日々の過程は関係なくなってしまうので、意味がないと思います。意味を持たせるには教師が毎回チェックする必要があります。</u>

S7	やれと言われればやるでしょう。でも、成績に入ると言われても私自身の気持ちは変わらないかもしれませんが、いい成績が取りたいと思って受講したわけではないので、好きなことはファイルすると思いますが、いい点を取るために好きでもないことに取り組むことはないと思います。
----	---

S5 は、ポートフォリオ作成・提出を修了要件に入れることは、取り組みを促すきっかけにはなると述べているものの、自分のポートフォリオが点数で表される評価の対象となるのには抵抗があるようだ。

(4) 見本や具体的な説明の提示

クラスメートとポートフォリオを見せ合うことのほかに、教師ももっとやり方や見本を提示したり、説明を工夫して受講生のやる気を引き出ししたりしたほうが良いという意見も出た。

S3	先生が、前の受講生のポートフォリオを見せてくれたんです。「こんな素敵なポートフォリオを作った人もいますよ」って。それを見て、「わあ、すごい。私もこんなふうにやりたい」と思ったんですよ。(中略)よくやった人のポートフォリオを見せたら、みんなも意欲が出ていいと思います。
S3	(最初はポートフォリオなんて面倒だと思ったが、教師が) 授業と関係があるものを入れてもいいし、入れなくてもいいって言ったので、私はお祭りとかアニメに興味があって、お祭りのことを見て説明とか聞いて考えたことがあったら、「ああ、ポートフォリオにこういうものを入れたいのか」って思って書いて入れていって (気軽にできた)。
S4	(ポートフォリオの作り方の) 方向性を示してもらえるといいと思います。例えば、このサイトを参考にするといいとか。(中略) 取り組むことで日本語がどれぐらい上達するか話してあげて。

4. 今後の課題

インタビューの回答分析から、次のことを今後のクラス運営の中に取り込んでいきたい。

① 引き続き、クラスメートとの話し合いの時間を重視する

クラスによっては、時間の関係で割愛されたり、教師の理解不足で有効な話し合いができなかったりもするようだが、あらためて教師同士で情報や知識の共有を計り、この時間を活用できるようにすべきである。

② 教師と受講生のコミュニケーションを増やす

面談のようにあえて時間を取るのではなく、休み時間や授業中の作業が早く終わった時などに、こまめに受講生に声をかけ、その人の興味や目的、ポートフォリオの取り組み具合を教師が常に把握しておくことも大切だ。それと並んで、受講生が自分で取り組んだことに対しては肯定的なフィードバックを与え、自信を持ってもらうことも必要であろう。

③ 教師は継続的な視点を持つ

S1、S2 は、以前に受講したクラスでポートフォリオを理解し、今学期のクラスでも安定して取り組むことができたと述べている。では、例えば S5 も今後彼らのように安定して取り組むことができるだろうか。S5 のような受講生の取り組みを継続させていくためにはどうすればいいのか、考えたい。

④ ポートフォリオファイルに保存する意義を把握する

S3 はアニメの翻訳に夢中になっているが、それをポートフォリオに記録したり保管したりすることはなかった。S6 もそれなりに日本文化に触れているが、保管するための機器が手近になくてできなかったと言う。このような学習者にファイルの形でのポートフォリオを活用してもらう必要性を説くにはどうすればいいのだろうか。一つの案としては、クラスメートとのシェアの楽しみを伝え、シェアできる形

で持ってくることの大切さを言うことであろう。また、形にこだわらず、スマホやパソコンも連携できるような仕組み、e-ポートフォリオなども検討するべきなのかもしれない。

もう一点、今回のインタビューから考えたことは、受講生個人の性格や嗜好とポートフォリオとの関係である。紙に重要事項をまとめなおして書くことが好きな S2、知らないことをネットで検索し、そこから連鎖的に情報をたどっていくのが好きで、それを趣味で集めた便箋にまとめるのも好きな S3、「もともとファイルして整理するのが好きだった」と述べた S5 や S6 は、形あるポートフォリオに記録を残すことを楽しむタイプだといえよう。仕事柄、計画や意見を書類にまとめるのに慣れている受講生もポートフォリオには抵抗がないかもしれない。しかし、そういったタイプではない受講生もクラスにはいる。彼らに対する働きかけはどうすればいいのか、これからの課題として考えていきたい。

⑤ 日本語のレベルとポートフォリオの中身の関係について理解を深める

初中級クラスで使ったポートフォリオ関係のシートや資料は、入門レベル対象に作ったものをそのまま利用している。しかし、このレベルになると、教師としては「〇〇を食べた」「〇〇を見た」といった体験だけでなく、そこから何かを考えたり調べたり、自文化との比較をしたりして行ってほしいとも思う。現在使用している文化体験の記録シートにもそれについて書く欄はあるのだが、正しく記入している人はごくわずかである。この点に関しても教師で話し合い、改善していく必要があると感じている。

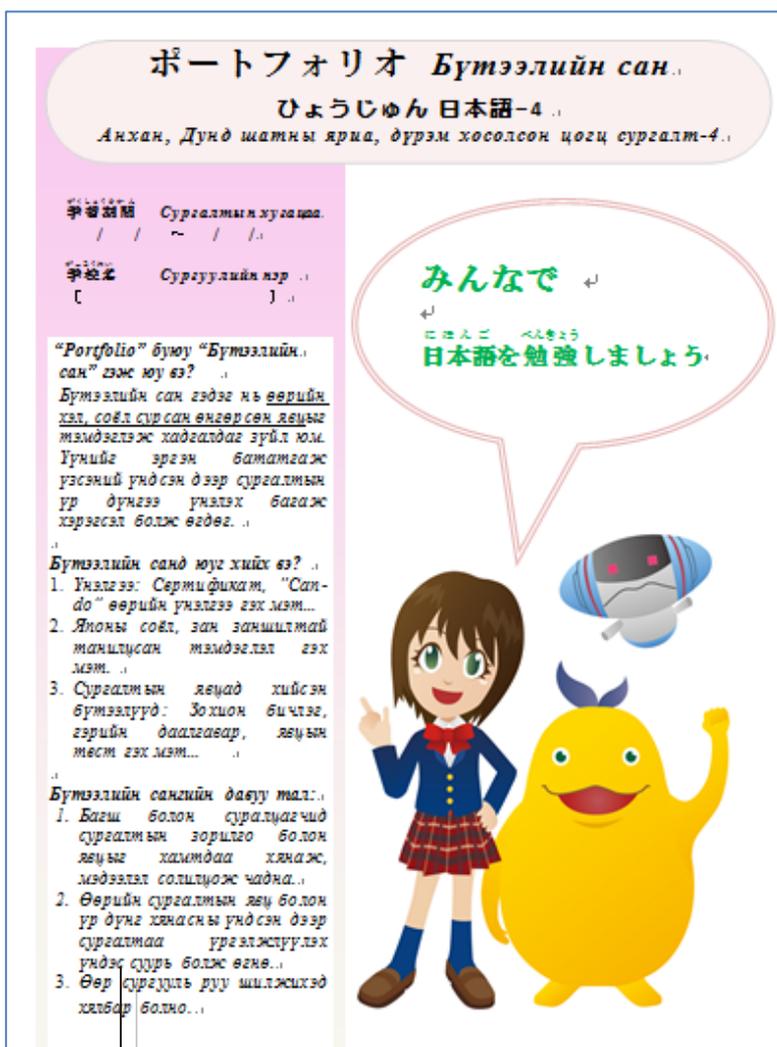
⑥ とにかく取り組んでもらう

S7 のように頑としてポートフォリオに取り組まず、教師をやきもきさせる受講生がいるのも事実である。しかし、S7 にインタビューするうちに、教師側が気を揉んで一方的に対策を練るよりも、とにかく取り組んでもらうことが肝要なのかもしれないと思うようになった。また、S3、S4 からは「教師から強制されてやっても、それは私にとっては意味がある」という意見も出た。どんなきっかけであれ、まずやってみなければわからないと根気よく受講生に伝えていくべきだろう。

【参考文献】

- 片桐準二 (2014) 「JF 講座受講生のポートフォリオに対する態度変化の過程—受講生インタビューの分析から—」 国際交流基金日本語教育紀要 第 10 号
- 国際交流基金 (2010) 『JF 日本語教育スタンダード 2010 利用者ガイドブック』

資料1：ポートフォリオ表紙 (⇒モンゴル語に日本語訳を付けること)



ポートフォリオとは？

ポートフォリオとは自分の言語的・文化的学習過程を記録し、保存するもの。
 これをふり返ることで、学習成果の評価のツールとして使うことができる。

ポートフォリオには何をファイルすればいい？

- 1. 評価シート：修了証、Can-do チェックシートなど
- 2. 言語的文化的体験の記録
- 3. 学習成果物：作文、宿題など

ポートフォリオの長所

- 1. 教師と学習者が学習目標と学習過程を共有できる。
- 2. 自分の学習過程や成果を確認でき、学習継続の動機付けになる。
- 3. 他の教育機関への移行がスムーズになる。

資料2：プロフィール

なまえ Овог нэр:	
[Select the Date]	
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 100px; margin: 0 auto;"> <p>しゃしん 写真 зураг</p> </div>	<p>ニックネーム <i>Дотно нэр:</i> <small>たんじょうび</small> 誕生日 <i>Төрсөн өдөр:</i> <small>じゅうしょ</small> 住所 <i>Гэрийн хаяг:</i> <small>しごと</small> 仕事 <i>Ажил:</i></p>

<p><small>かぞく</small> 家族 <i>Гэр бүл</i></p>
<p><small>しゆみ いま きようみ</small> 趣味・今 興味があること <i>Хобби болон одоо сонирхож байгаа зүйл</i></p>
<p><small>しかく しよりほつ</small> 資格・賞 罰 <i>Авъяас чадвар, гавьяа шагнал</i></p>
<p><small>べんきよう かいこくご</small> 勉強 したことがある外国語 <i>Сурч байсан гадаад хэл</i></p> <p><small>れい えいご ちゅうがく こうこう ねんかん</small> 例：英語 (中学～高校の6年間) <i>Ж нь: Англи хэл /Дунд сургууль-Ахлах сургууль 6 жил/</i></p> <p style="text-align: center;">□</p>
<p><small>す にほんご ことば</small> 好きな日本語の言葉 <i>Дуртай япон үг</i></p> <p><small>す にほんぶんか</small> 好きな日本文化 <i>Дуртай япон соёл</i></p>

資料3：日本文化体験の記録シート（一部）

№		なまえ Нэр	
---	--	---------	--

わたしの「にほん たいけん」

Японы соёлтой танилцсан талаарх тэмдэглэл



1. 生活の中には、「日本」について見たり、聞いたり、読んだり、やったりする機会はたくさんあります。このような機会も日本語を覚えたり、練習したりするチャンスです。あなたの体験した「日本」について、例のように書いてください。日本語・モンゴル語どちらで書いてもいいです。

Бидэнд Япон орны тухай үзэж харах, сонсох, унших, хийх боломж олон байгаа. Энэ боломжууд нь япон хэлийг сурах, тогтоох, давахад их нөлөө үзүүлдэг. Та өөрийн хийж үзсэн зүйлүүдийн талаар доорх жишээний адилаар бичиж тэмдэглэнэ үү. Япон юм уу Монгол хэлний аль нэгэнээр нь бичиж болно.

ばんごう 番号 №	ひづけ 日付 Он сар өдөр	ばしょ 場所 Хаана	たいけん おも どんなことを体験しましたか。どう思いましたか。 Ямар зүйл хийж үзсэн бэ? Юу гэж бодсон бэ?
れい 例1	2012.10.6	にほん どしょじつ 日本センターの図書室 Япон төвийн номын санд	にほん ざっし 日本の雑誌を見た。写真がきれいだった。 Японы сэтгүүл уншсан。Зураг нь их гоё байлаа。
れい 例2	2012.10.7	うた Гэртээ	うた YoutubeでAKB48の歌を聞いた。 Youtube—ээс AKB48 хамтлагийн дууг олж сонслоо。
1			
2			

2. 「文化体験活動のヒント」の説明を聞いて、あなたもやってみたいことはありませんか。

“Японы соёлтой танилцах сайт болон бусад мэдээлэл”-ийг сонсоод хийж үзмээр санагдсан зүйл байна уу?

【 年 он 月 сар 日 өдөр 】

やって みたいこと Хийж үзмээр зүйл	どこで/どうやって? Хаана / хэрхэн?
れい 例) おがみ 折り紙でいろいろなものを作る Цаасан нугалбараар олон төрлийн зүйл хийх	み ・ウェブサイトを見て Вэб хуудсыг хараад

ちゅうかん
ふりかえり（中間） 【 年 on 月 sar 日 өдөр 】

3. 1で書いたことの中からおもしろかった体験を3つ選んでください。

1-дээр бичсэн зүйлсийн дундаас хамгийн сонирхолтой байсан 3-н зүйлийг сонгоно уу.

No	どんな体験？ Ямар зүйл хийж үзсэн бэ？

4. その体験のあとで、あなたの考え方や行動に前と変わったことがありましたか。どんな体験をしたか、どんな変化があったか、クラスメートと話し合ってください。そして、出た意見を書いてください。



Тухайн зүйлийг хийж, туршиж үзсэний дараа таны бодол санаа, үйл хөдлөлд өмнөхөөсөө өөрчлөгдсөн зүйл гарсан уу? Ямар зүйлийг хийж үзсэн, ямар өөрчлөлт гарсан болохоо ангийнхандаа ярьж өгнө үү. Тэгээд гарсан санал сэтгэгдлийг бичнэ үү.

5. クラスメートの文化体験のなかで、あなたもやってみたいことはありましたか。

Ангийнхны чинь хийсэн зүйлээс хийж үзмээр санагдсан зүйл байсан уу?

やって みたいこと Хийж үзмээр зүйл	どこで/どうやって？ Хаана / хэрхэн？
<small>れい</small> 例) <small>た</small> ラーメンを食べる Раамэн идэх	<small>きょういだい</small> <small>む</small> <small>がわ</small> ・CHIYODA (教育大の向かい側) (Боловсролын их сургуулийн хажуу талд)

資料4：自己評価・振り返りシート

まるごと初中級（A2/B1）ひょうじゅん4コース

自己評価・振り返りシート

№： _____ 名前： _____

振り返りシート

第1課（きいてはなす）

☆☆☆ しました ★★☆☆ できました ★★★ よくできました

課	トピック名	Can-do	自己評価① 年 月 日	自己評価② 年 月 日
№1	スポーツの 試合	1. 友だちを外出にさそう/さそいをうける	☆☆☆	☆☆☆
		2. りゆうを言ってさそいをことわる	☆☆☆	☆☆☆
		3. りゆうを言ってやくそくをキャンセルする	☆☆☆	☆☆☆
		4. スポーツの試合で好きなチームをおうえんする	☆☆☆	☆☆☆
		5. 自分が見たスポーツの試合について話す	☆☆☆	☆☆☆

第2課（よんでわかる）

☆☆☆ しました ★★☆☆ できました ★★★ よくできました

課	トピック名	Can-do	自己評価① 年 月 日	自己評価② 年 月 日
№2	スポーツの 試合	1. おわびのメールと返事のメールから、じじつと書いた人の気持ちを読みとる	☆☆☆	☆☆☆
		2. 外出のほうこくのメールから、じじつと書いた人の気持ちを読みとる	☆☆☆	☆☆☆

❖ 今日のじゅぎょうをふりかえりましょう。「～についてもっとしりたい」「～がわかった」「～がおもしろかった」「～がむずかしかった」「～にきがついた」「～とおもった」をつかってコメントを書きましょう。

1課 _____

2課 _____

先生の評価
☆☆☆

先生より:

資料5：ポートフォリオ評価用紙

名前	ポートフォリオの（中間・期末）評価シート		
○○○	ひょうか 評価	せいかぶつ 成果物	ぶんかたいけん 文化体験
コメント			



JF 日本語教育スタンダードの評価レベルは Common European Framework of Reference for Languages (CEFR) に合わせて作られています。モンゴル日本人材開発センターJF 講座の「標準日本語4コース」は A2/B1 レベルになることを目標にしています。2~6 ページ CEFR 自己評価表を読んで目標レベルを確認しておきましょう。このコースが終わったら、下の表の A2/B1 のところをチェックしましょう。また、将来の自分の日本語能力の目標も考えて表に記入しましょう！

Япон сангийн Япон хэлний боловсролын стандартын үнэлгээний түвшинг Европын холбооны улсуудын хэл шинжлэлийн нэгдсэн стандартад³ (CEFR) тулгуурлаж боловсруулсан. Япон сангийн дэмжлэгтэйгээр Монгол-Японы Хүний Нөөцийн Хөгжлийн Төвд зохион байгуулагддаг сургалтуудын нэг болох “Япон хэлний яриа, дүрэм хосолсон анхан шатны цогц сургалт-4” нь суралцагчдыг япон хэлний A2/B1 түвшинтэй болгох зорилт тавьж байна. 2-6-р хуудсанд байгаа CEFR-ийн өөрийгөө үнэлэх үнэлгээний хүснэгтийг уншиж үзээд зорилтот түвшингээ мэдэж авцгаая. Тус сургалтын төгсгөлд A2/B1 хэсгийг дахин нягталж үзээрэй. Мөн ирээдүйд ямар түвшинд хүрэхийг зорьж буйгаа эргэцүүлж үзээд мөн бөглөөрэй.

CEFR 自己評価表 Өөрийгөө үнэлэх үнэлгээний хүснэгт

◎よくできます **сайн чадна** ○できます **чадна** △まあまあできます **дунд зэрэг**

	A1	A2	B1	B2	C1	C2
理解すること（聞くこと） Сонсож ойлгох чадвар /Сонсох чадвар/						
理解すること（読むこと） Унших ойлгох чадвар /Унших чадвар/						
話すこと（やり取り） Ярих чадвар /Харилцах чадвар/						
話すこと（表現） Ярих чадвар /Хэллэг/						
書くこと Бичих чадвар						

Япон хэлний яриа дүрэм хосолсон анхан шатны цогц сургалт-4 (A2/B1)



³ Common European Framework of Reference for Languages. Цаашид CEFR гэх.

資料7：インタビュー質問項目

テーマ	質問No.	質問内容
ウォーミングアップ	1	修了式の後で、ポートフォリオを見ましたか。
	2	あなたがポートフォリオにファイルしたものの中で、気に入っているもの、気に入っていない（よくわからない）ものはどれですか。それはどうしてですか。
	3	日本センターの授業を取る前に、ポートフォリオを知っていましたか。
取り組み方	4	あなたのポートフォリオへの取り組みは次のうちのどのタイプですか。その理由や、変化の時期・きっかけは？ ①最初から積極的に取り組んだ。 ②最初は消極的だったが、途中から積極的になった。 ③最初は積極的だったが、途中から消極的になった。 ④最初から最後まで、興味が持てなかった。
教師の説明	5	コース最初のポートフォリオの説明を覚えていますか。
ピアの影響	6	クラスメートと見せ合ったり、クラスメートとポートフォリオについて話し合ったりしたことは取り組みに影響しましたか。どうして？どのように？
ポートフォリオに対する評価	7	ポートフォリオは日本語学習に役立ったと思いますか。
	8	ポートフォリオに取り組んで自分自身が変わったことはありますか。
ポートフォリオに積極的に取り組むために	9	ポートフォリオを評価に入れることについてどう思いますか。点数化することについてどう思いますか。 そのほか、皆がポートフォリオに取り組むようにするためのアドバイスはありませんか。